

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

巡り合わせを感じるべきこと

東日本の各地で多くの犠牲者を出した台風19号。時間が経過し、被害状況が明らかになるにつれ、今回の台風の脅威を感じざるを得ません。当時、江府町でも警報発令で待機態勢は組まれましたが、幸いにも、災害が発生することなく何よりでした。遠くからですが、被災されたみなさまに、お見舞いを申し上げたいと思います。

さて、その台風19号が首都圏を直撃した日の翌日、東京にあるアンテナショップ「とっとり・おみやま新橋館」で、下蚊屋荒神神楽の公演がありました。外国人を対象にした鳥取県主催のイベントで、多くの外国人のお客様ににぎわいました。神楽の所作はもろんのこと、面や衣装にも興味津々で、演じている様子を写真やビデオに収めるとともに、演者と一緒に記念撮影をされていました。江府町下蚊屋の神楽が世界に通用する伝

統芸能だと確信できたひと時でした。

時を同じくして、全

日本ろうあ連盟創立70周年記念映画「咲む

(えむ)」の撮影が、

江府町役場を舞台に行

われました。平井鳥取

県知事を始め、町内か

らも多くの人がエキストラを務め

られました。来年6月から、全国

の劇場や市民ホールなどで公開が

予定されているとのこと。来年度

中には長年の役割を終える役場本

庁舎が、このような形で記録に残

ることは、とてもありがたいこと

だと思えます。これもまた、何か

の巡り合わせを感じるべきこと

でした。



▲東京のアンテナショップでの神楽公演の様子

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム(※)活動報告

若手職員グループによる「小さなカイゼン部活動」の第3回部活動を10月23日(水)、江府町総合健康福祉センターで行いました。

今回は、今後の住民向け発表会に向けて、班ごとに設定した課題についてまとめた「やろうと決めたこと」の進捗状況を発表しました。毎月決まった日を「一斉清掃日」とし、清掃日にむけた啓発を行って「は」と具体的な片づけを提案する班もあれば、「文書を受付ける際の番号については法的拘束力がない」とが調べてみると分かった。

『やらなくてもよいことリスト』を作ってみては」と事務の見直しを提案する班もありました。また、課題を「職員のモチベーションアップ」に路線変更した班や、「伝わりやすいメールの書き方」にテーマを絞って職員が共有して使える汎用のテンプレートを作成する班もありました。



▲第3回「小さなカイゼン部活動」の様子

年内には、町民のみなさんへの発表会を計画しています。それまでに、第4回部活動を開催し、発表会にむけたデモンストラーションの実施を予定しています。具体的な日程や場所などが決まりましたら、町報やホームページ、防災無線などでご案内いたします。住民のみなさまのご参加をお待ちしております。

これまでの活動はこちら!



これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。